

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させてい
たきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 北海道登別明日中等教育学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒059 - 0016
北海道登別市片倉町5丁目18-2
E-mail : akebi@hokkaido-c.ed.jp
Website : http://www.akebi@hokkaido-c.ed.jp
児童生徒数 : 男子 183 名 女子 273 名 合計 456 名
児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (地域調査)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

○ユネスコスクールとしての教育活動と関連する本校の教育活動

(1) 教科学習／道徳

- ・環境問題を取り上げた学習
- ・地域の自然や文化を取り上げた学習
- ・異文化理解を取り上げた学習
- ・グローバル社会へ対応を取り上げた学習

(2) 「総合的な学習の時間」

- ・1年次 地域ウォッチング キッズ ISO
- ・2年次 地域の職場見学を通じて地域社会の国際化について学習
- ・3年次 イマージョンプログラム（数学／社会／技術・家庭／ALTによる英会話の教科連携で学ぶ国際理解教育）、異文化理解をテーマにした講話
- ・4年次 小学校の英語活動を通じた異年齢交流
- ・5年次 国際理解をテーマにした事例研究
- ・6年次 小論文学習

(3) 特別活動／学校行事

- ・2年次 イングリッシュキャンプでALTに日本文化を紹介
- ・3年次 見学旅行にて異文化理解に関わる体験学習
- ・4年次 宿泊学習を通じて、道内企業の国際的企業活動の展開を学習
- ・5年次 海外見学旅行、ホームステイ・ボッセル高校生との学校間交流

(4) 生徒会活動／部活動

- ・文化祭におけるユネスコ展示
- ・世界食糧デー登別大会への生徒会執行委員の参加と合唱部の出演
- ・室蘭ユネスコ協会主催 ユネスコスクールフォーラムへの参加
- ・ユネスコ寺子屋運動への参加、東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金への協力
- ・地域貢献活動（クリーン作戦）

1 本校の国際理解教育とESDについて

本校の国際理解教育は、外国語教育を重視しながら、異文化理解に関わる体験学習を系統的に6年間の教科・総合的な学習の時間・特別活動を通じて展開されている。

例えば、2年次（中学2年）のイングリッシュキャンプ、3年次（中学3年）の語学体験学習を主体とした見学旅行、5年次（高校2年）の海外見学旅行は、これらの行事を中核としながら、総合的な学習の時間や教科の学習を有為に結びつけて展開されている。

語学を身につけることが、国際理解教育の主たる目的ではないため、これらの機会を生かして、異文化理解や自国の文化や社会の特徴への理解を深めることが重要となる。

「本来、国際理解教育は、国際化・グローバル化した現代世界、社会の中で生きていくために必要な資質や能力を育成する教育である。」（『グロー

バル時代の国際理解教育』日本国際理解教育学会編 明石書店 28頁
 1 国際理解教育の目標 より／ESDアシストプロジェクト助成金活用)したがって、学習した外国語をツールとして活用し、地球規模の問題の解決等をテーマに実践的にコミュニケーションを図る場面などがあるということが重要となる。自国の文化への理解を深めつつ、他者に対する寛容な態度や異なる文化を理解する姿勢を身につけ、価値観の異なる課題に対して協同して取り組むことのできる人間性や社会性を身につけることを、本校の国際理解教育においても目指していきたい。ユネスコスクールとして、ESDにかかわる教育活動を展開することで、本校の国際理解教育の理念と実践の具体像が明確にされる。

2 教科連携で英語によるコミュニケーション活動を展開したESDの実践例

(1) 3年次総合的な学習の時間・国際理解教育の目的

- 外国の生活習慣や文化、国際情勢について課題解決的・体験的に学習することを通じて、国際社会への理解を広げるとともに、国際社会における生き方の発見を促す。
- 国際理解に関する学習内容を英語で学ぶことにより、英語を自然かつ効果的に習得し、日常的に英語を使える実践的なコミュニケーション能力を養う。
- グループ活動を通じて、他者とかわりながら課題解決的な学習活動を展開することで、国際社会に生きる資質として課題解決に導く思考力や他者との協働を実践するコミュニケーションの方法を学ぶ。

(2) 教科・他領域との関連

これまでの外国語学習の成果を生かした語学研修を実施する見学旅行に先だって、英語による実践的なコミュニケーションの場を増やし、国際理解につながる様々な価値や事象を英語で学び、見学旅行に向けたレディネスを形成する時間とした。英語や英会話で学んだ語彙力、社会科で学んだ異文化理解や国際情勢、数学の既習事項や数的な単位、家庭科の調理実習、技術のプレゼンテーションスライド作成を各教科と関連した学習内容として、教科担任の連携でクロスカリキュラムを実施した。その際に、これまでの道徳教育で取り上げてきた、我が国の伝統や文化に関する理解や他者とともに生きるために必要な道徳的価値観や本校のESD活動との関連を意識して展開した。

(3) 指導計画（時数計画・内容・担当）

計画	タイトル	企画担当	指導内容・目的	使用教材	評価（ESD全体計画による）
1 2時間	オリエンテーション	3年次	「国際理解」のねらい、見学旅行の事前学習としての位置づけ	説明資料	持続可能な発展に関する価値
	世界について(講演会)		中国語、生活習慣からとらえた異文化理解について 中国の学生の学ぶ姿勢と今後の東アジア交流について	ワークシート プロジェクト	体系的な思考力・代替案の思考
2 1時間	英語で学ぶ国際理解と数学	英語 数学	英語で情報を得て、英語で自己表現することと「国際理解」を進めることとの関連 既習事項の数学を英語を使用して学ぶ体験。	ワークシート プロジェクト	体系的な思考力・代替案の思考

3 1時間	世界で使用されるさまざまな単位や計算	英語 数学	英語を使用したコミュニケーションを通じて、情報を得る、情報を処理、思考過程を英語で表現する。英語圏の国と日本の単位換算の違いを理解し、計算する	ワーク プロジェクト	データや情報の分析 コミュニケーション・リーダーシップ
4 1時間	国際情勢について考えよう	社会	「世界がもし 100 人の村だったら」を英語で読んで考える。 ALT の講話から、南北問題や貧困の問題について考える。 ※社会科・公民的分野の「国際政治」の学習成果を活用	ワーク プロジェクト	持続可能な発展に関する価値
5 2時間	貿易ゲーム	社会	紙で製作した製品を市場で売り、グループで売り上げを競う。市場での売買、他のグループとの交渉等は英語によるコミュニケーションとして、貿易上必要な場面で実践的な判断力、チームワーク、コミュニケーション力を発揮する	ワーク 紙、ハサミ、コンパス、鉛筆、定規	コミュニケーション・リーダーシップ 体系的な思考力・代替案の思考
6 2時間	ALT とクッキング	家庭	ALT より伝統的なお菓子の調理について学び、グループで調理を行う。貿易ゲームの結果を踏まえて、調理した料理のシェアの在り方を考察する。	ワーク 調理の材料	コミュニケーション・リーダーシップ
7 2時間	国際理解について学んだことを世界に発信しよう	技術	数学・社会・家庭科で学んだこと、自分たちが考えたことをプレゼンテーションで表現。学習内容のまとめを英語で表現し、スライドとしてデザインする。	ワーク	体系的な思考力・代替案の思考 データや情報の分析
8 2泊3日	見学旅行 福島プリティッシュヒルズ語学研修	3年次	※当日の実施要領は別途作成 洋楽（英語の歌）の理解を通じた異文化学習。食に関する英会話のロールプレイ（日本の食文化を英語で表現、レストランでの会話）、買い物に関するロールプレイ（通貨の交換、丁寧な英語表現）	ワーク	コミュニケーション・リーダーシップ

(4) 実施にかかるグループ編成とコミュニケーション活動、ホームルーム集団の形成

それぞれのホームルームで4人ひと組のグループを編成し、それぞれの学習活動で提起される価値項目に対する課題解決を図る討議、協働活動を行い、コミュニケーション能力の伸長を図るとともに、ホームルームにおける人間関係の深化につなげるよう心がけた。グループ編成や学習活動におけるホームルームでの討議などは、各ホームルームの生徒組織を通じて、民主的に合意形成を図るよう促した。

(5) 学習活動を終えて

各教科の学習活動をリレーして短期間で取り組んだことにより、内容の関連を図りながら異文化理解や国際協力に関する事柄を一体的に学ばせることができた。

貿易ゲームやALTとの調理を通じて、日常の英語学習で培った英語運用能力を実践的に活用する場面があり、見学旅行時の語学研修とも結びついて、生徒にとっては英語を使って表現



することへ自信を深める機会となった。

異文化理解や世界の現状、国際協力について学ぶことと英語を使用したコミュニケーションが結びついたことで、英語をツールとして使用する意義も実感できたため、その後の英語学習へのモチベーションを高めることにもなった。

※参考とした図書：

「グローバル時代の国際理解教育 実践と理論をつなぐ」明石書店

「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」開発教育協会

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）